



那珂川市自然環境観察員

2018 年度 観察結果報告書



活動報告～動物班～

調査の実施方法

- ◇場 所 裂田溝周辺、中ノ島公園、日吉神社、山田水辺公園、五ヶ山ダム 等
- ◇時 期 5/19、6/7、7/14、9/15、8/28、10/14、1/7
- ◇方 法 目視（双眼鏡・望遠鏡使用を含む）、鳴き声での確認、写真撮影での確認 等

見つけたもの・コメント



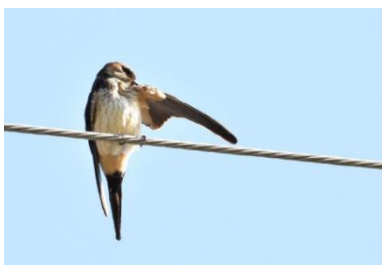
1) アブラボテ♂ 「絶滅危惧種」

褐色を帯びた体色が特徴です。4～8月の繁殖期に、雄は縄張り意識が強くなり、背びれと尻びれに橙色の縦帯が見られます。主に河川の中流～下流の緩流域や用水路に棲んでいます。雑食性で、附着藻類や小型の底生動物を食べます。



2) アオハダトンボ♂（左）♀（右） 「絶滅危惧種」

雄は翅脈が金青緑色に輝くカワトンボの仲間です。本州から九州にかけて見られ、5月初旬から7月末ころまで見られ、ヨシ、ツルヨシなどの水生植物が繁茂する清流に生息しています。



3) コシアカツバメ 「絶滅危惧種」

背面の色合いや尾の形は、ツバメに似ていますが、腰が赤茶色なのが特徴です。空中を滑るように飛ぶため、その独特な飛び方を生かして空中を飛行する虫を食べています。頻繁に見られる鳥ではないので、ツバメっぽい鳥がいたら腰の部分を見てみてください。



4) ハジロカイツブリ（那珂川市初記録）

夏羽と冬羽で極端に色や形状が異なる、カイツブリの仲間です。冬になると湖沼や、海岸沿い、内湾に集団でやってくる冬鳥です。穏やかな水面領域を好みます。主に魚や水中の貝、甲殻類の他に、空中の昆虫も捕獲することが観察されています。

気付いたこと、分かったこと、伝えたいこと等

那珂川市では、多くの希少種が生息していることは分かっていましたが、自然環境調査を定期的に行うことにより、新たな希少種も見つけることができました。ただその個体数が減少していることも事実で、今後観察会等で、その事を伝えていきたいと思えます。

活動報告～植物班～

調査の実施方法

- ◇場 所 中ノ島公園、日吉神社
- ◇時 期 6/3、9/22、1/12、1/26
- ◇方 法 目視、写真撮影での確認、幹径計測

見つけたもの・コメント



◆幹周り計測

日吉神社の比較的大きい木及び珍しい樹木、県指定天然記念物等の樹木を計測しました。位置図に書き込み、毎年の成長を計測していきたいと考えています。県指定天然記念物のオガタマノキの掲示板表示の幹周り 3.53mは変わらず同じ大きさでした。



◆樹木の位置確認

平成 14 年に調査された記録をもとに、植物に詳しいアドバイザーの方にも協力して頂き、樹木の位置の修正や、追記等を行いました。樹木を確認する中で、自然環境の良否の指標種となるミミズバイヤ、大きく育つことが珍しい、シャシャンボの木等を観察することが出来ました。しかし、すべての木の観察は出来ていないため、今後も確認を行う中で、観察も行っていきたいと考えています。



◆名札付け（仮付け）

植物に詳しくなければ、一目見ただけでは、樹木の名前が判定できません。そのため、日吉神社や中ノ島公園に遊びに来た方が、植物を見て楽しめるように、アドバイザーの方に協力して頂き、約 4 時間かけて、樹木にプレートを貼りました。今現在、仮止めの状態ですが、耐久性のあるプレートへ取り替えていきたいと考えています。



気付いたこと、分かったこと、伝えたいこと等

那珂川市には、大木が多くあります。100年、200年後が楽しみです。樹木の名前を知らない方も、大きな樹木というのは、興味を持つことができ、自然の中を歩くというのは、精神的肉体的にも効果があります。今後那珂川市の植物を所有者だけに任せず、市や市民での保護していくことが必要だと感じています。

活動報告～地形地質班～

調査の実施方法

◇場 所 片縄、安徳、五ヶ山、南面里、九千部山

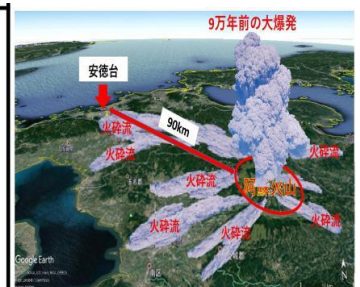
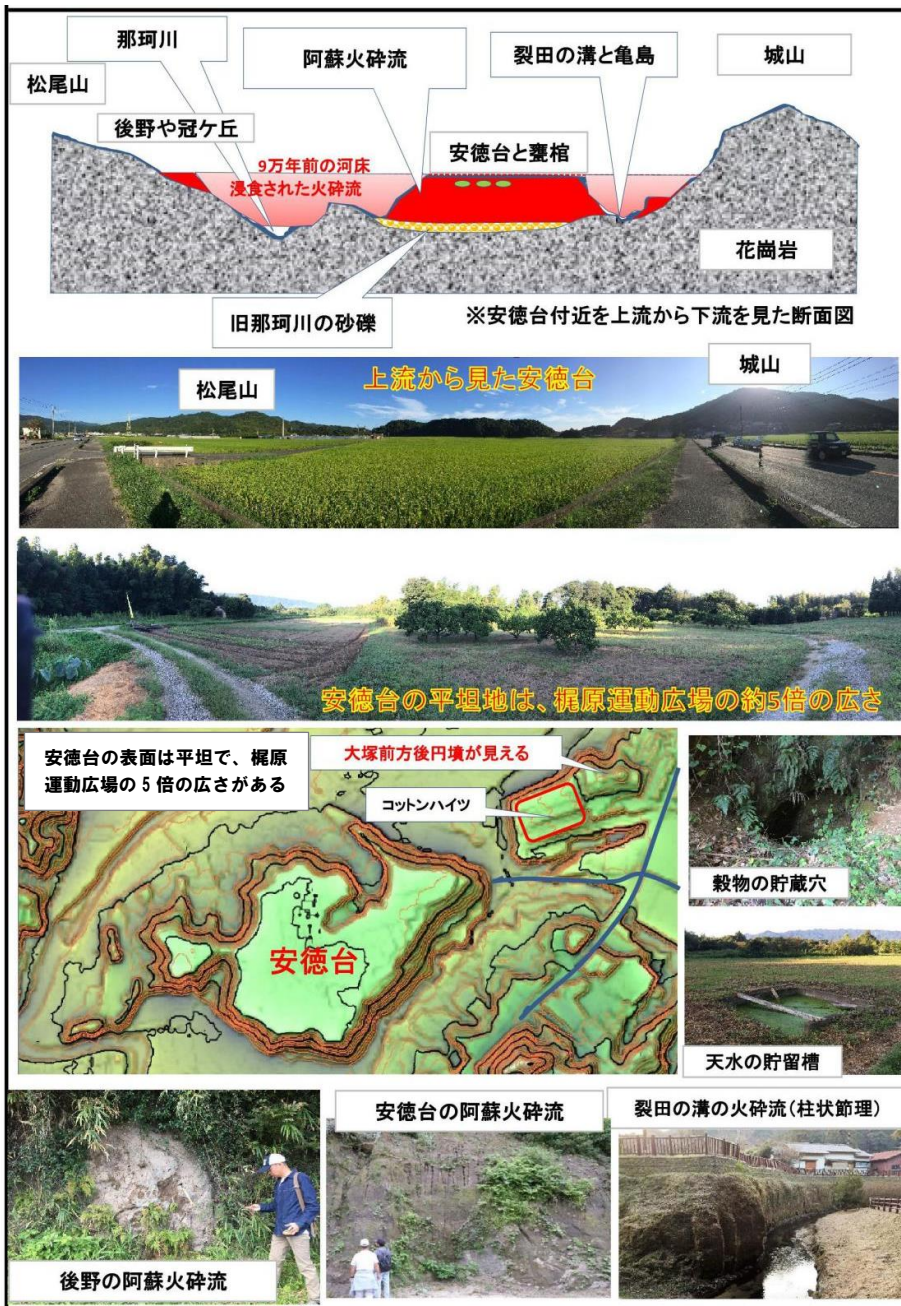
等

◇時 期 5/4、10/14

◇方 法 目視、写真撮影での確認、ドローンによる調査での確認

見つけたもの・コメント

安徳台の成り立ち



- 1) 安徳台は火山灰で出来ています。
- 2) この火山灰は、9万年前に阿蘇火山が大爆発したときに流れてきたものです。
- 3) 火山灰は那珂川を30mの厚さで埋め立てました。
- 4) 現在の安徳台は、当時の那珂川の河床の高さで残っています。
- 5) 安徳台の広さは梶原運動広場の5倍の平らな土地です。
- 6) 阿蘇火山の火砕流（火山灰）は裂田の溝で見ることが出来ます。
- 7) 堆積した火山灰の温度は数百度とされています。